

妖夢姉ちゃんが頑張る話。



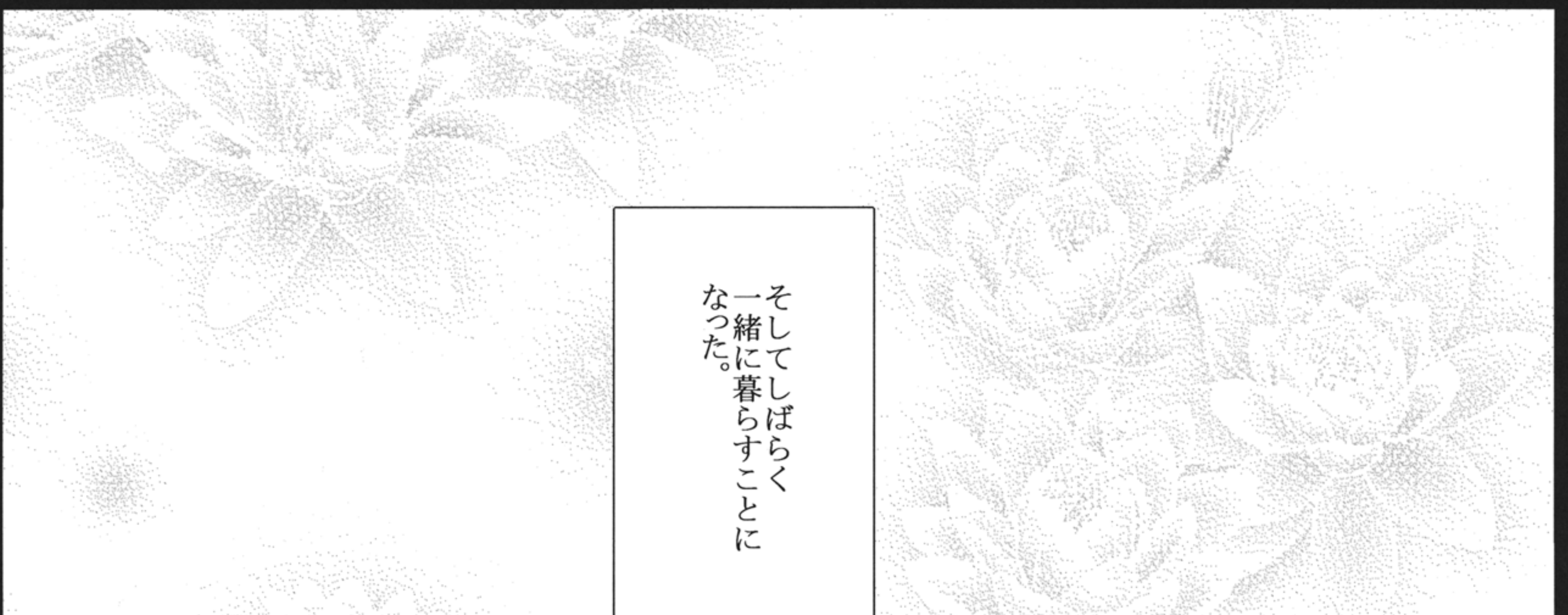


外の世界から来た
男の子

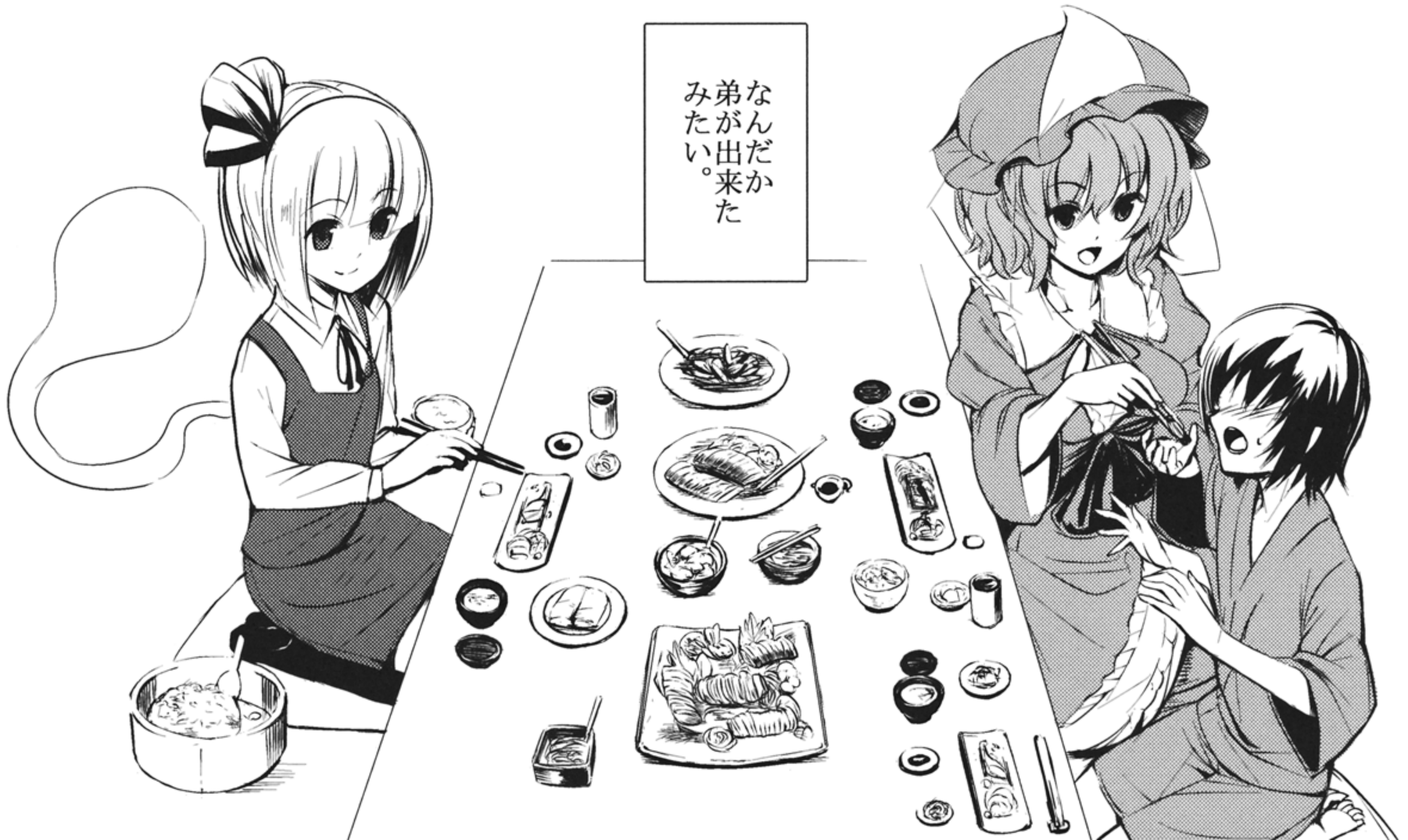


放っておくわけにも
いかないので
白玉楼に連れ帰った。

話を聞くと
元の世界でも
身寄りがないらしく

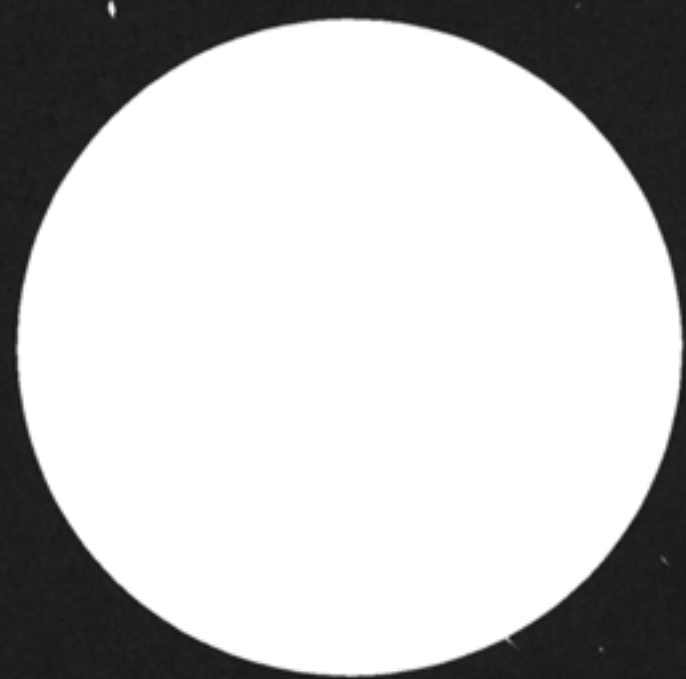


そしてしばらく
一緒に暮らすこと
になった。





戸締りをし、
一日を終えようと
していたところ

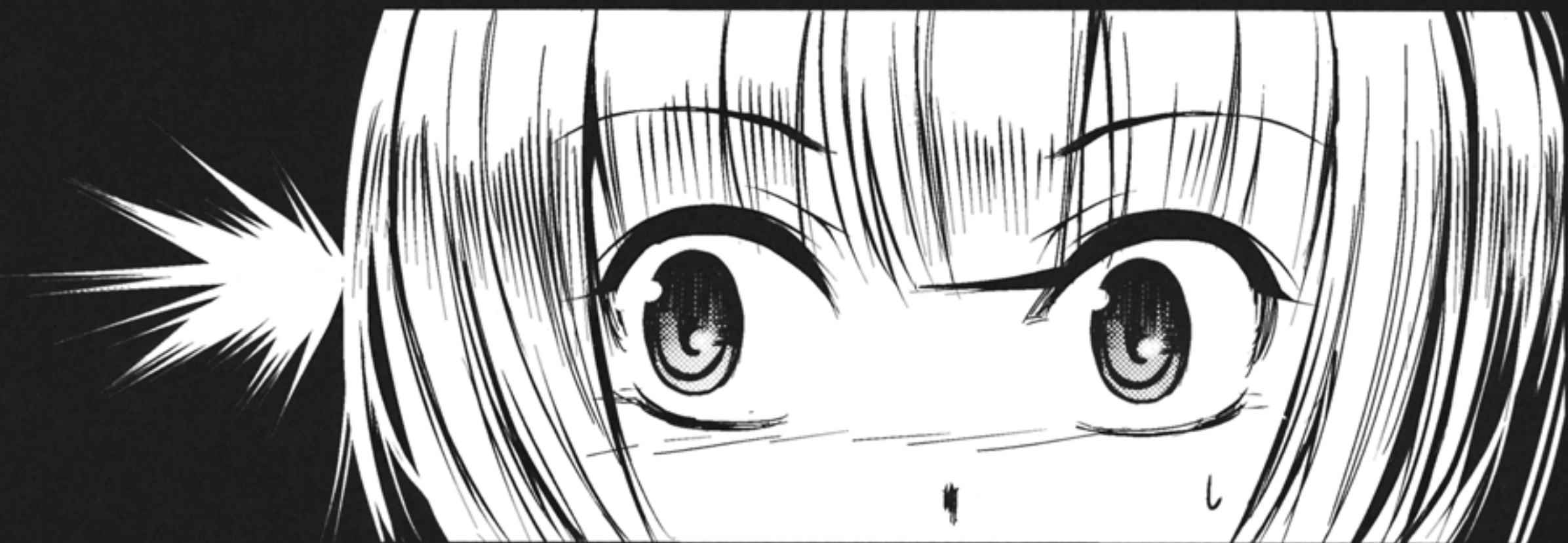


ところがある晩

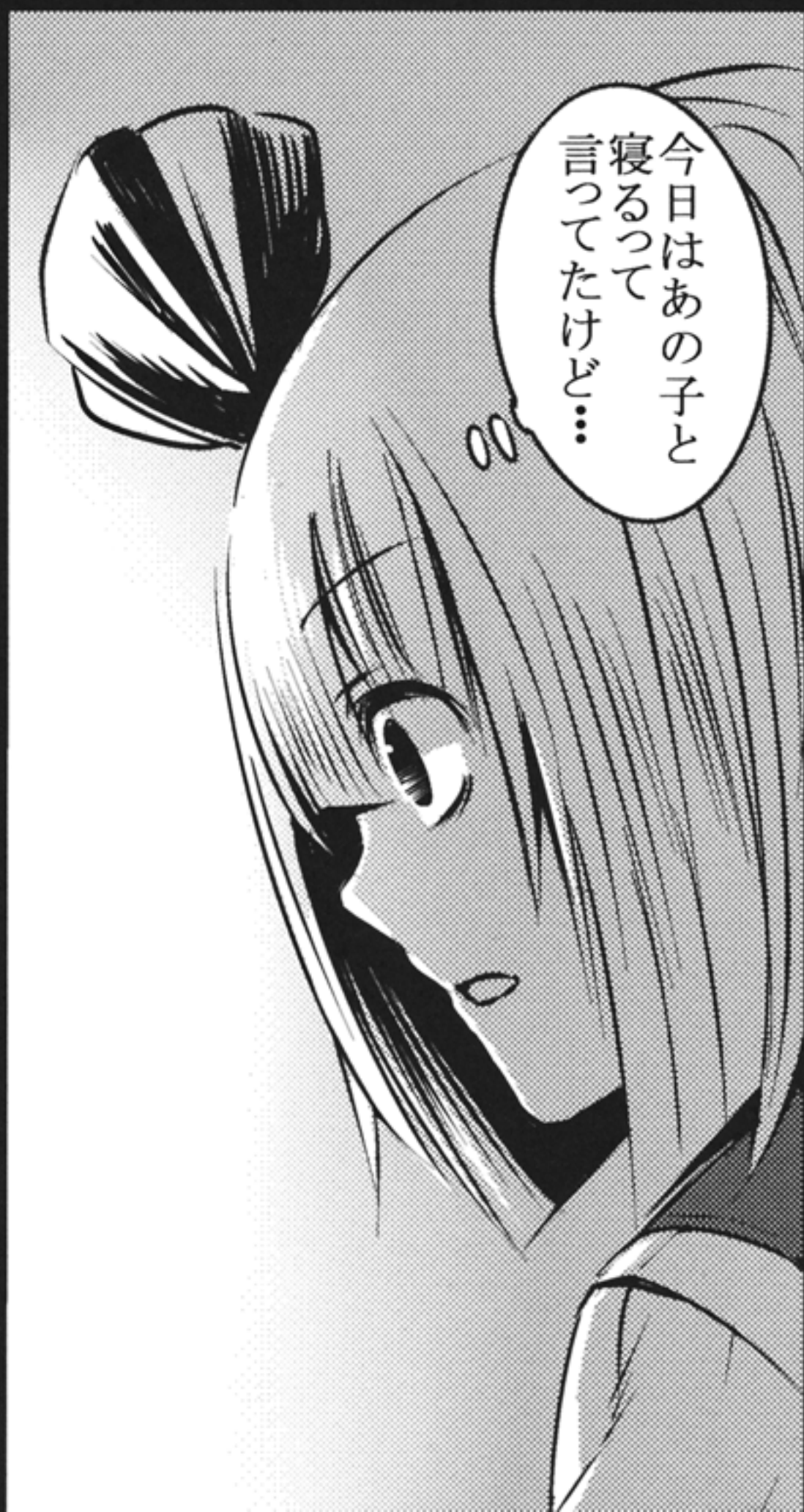


幽々子さまが
怖い話なんか
いたから
いつも以上に...
早くお風呂に
入って寝...

ふと、
何やら声が
聞こえることに
気づきました。



私は
見えました。



今日はあの子と
寝るって
言ってたけど...



そこは
幽々子さまの
寝室の前。

ハ？

ハ？


眠る幽々子さまに
不埒をはたらく

はあ...


はあ...

あの子の
姿を。





動けなかった。




主人を守るのが
従者の
務めなのに




ただ心臓の鼓動が

か
つ
て
な
い
ほ
ど
高
ま
つ
て
ゆ
く
の
を
感
じ
な
が
ら



目
の
前
の
光
景
を



じ
っ
と
見
つ
め
て
い
た。

ちゅぽ
ちゅぽ

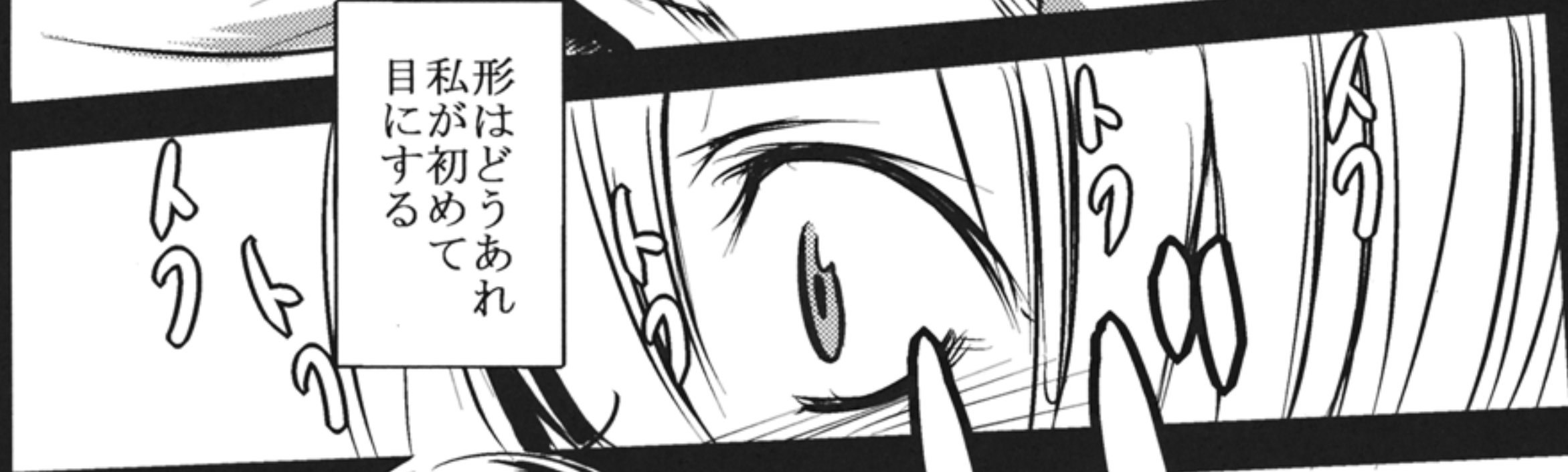
ちゅぽ
ちゅぽ



なぜなら
それは



忠義よりも
好奇心が
勝ってしまった。



形はどうあれ
私が初めて
目にする



男女の営み
だったから。

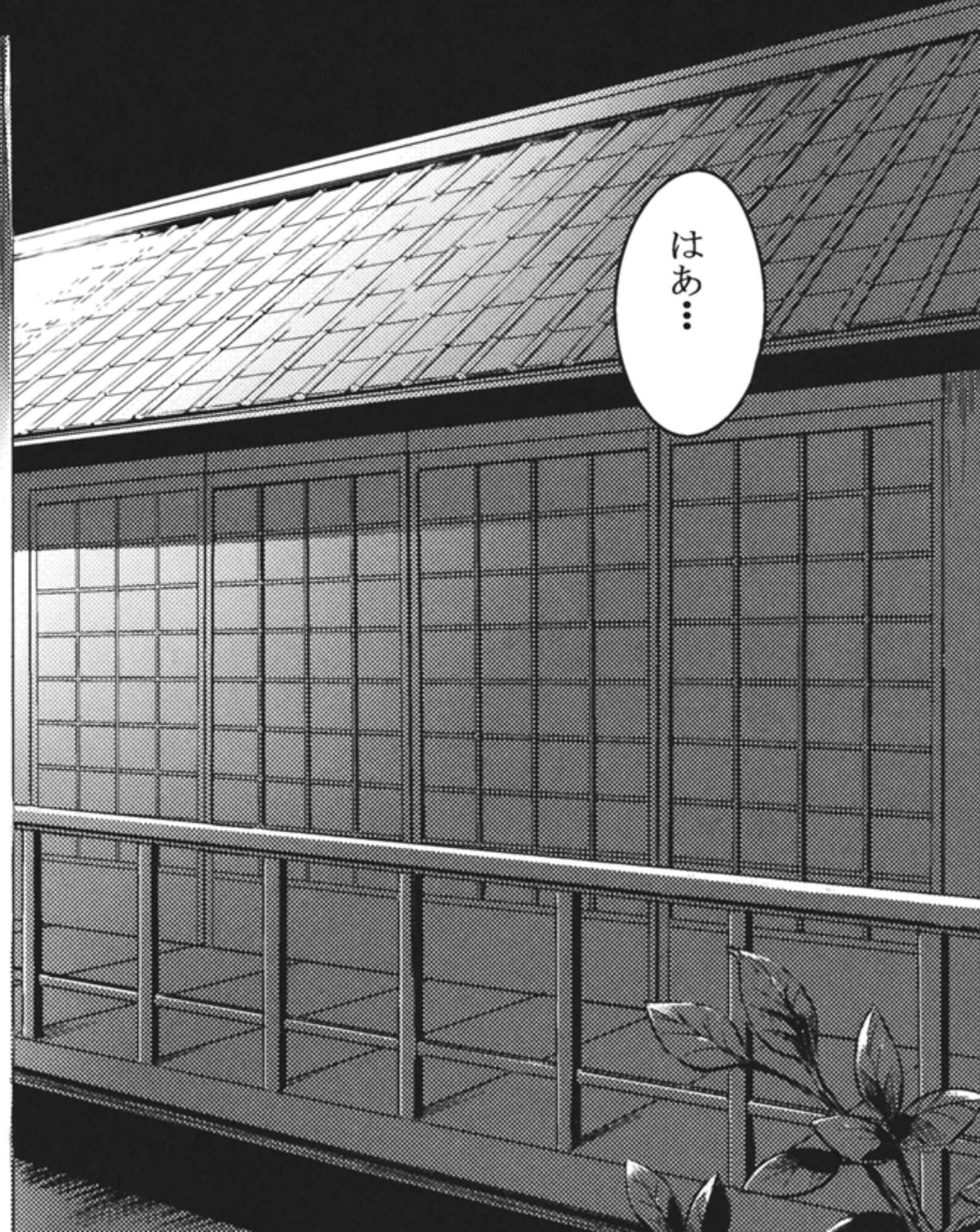




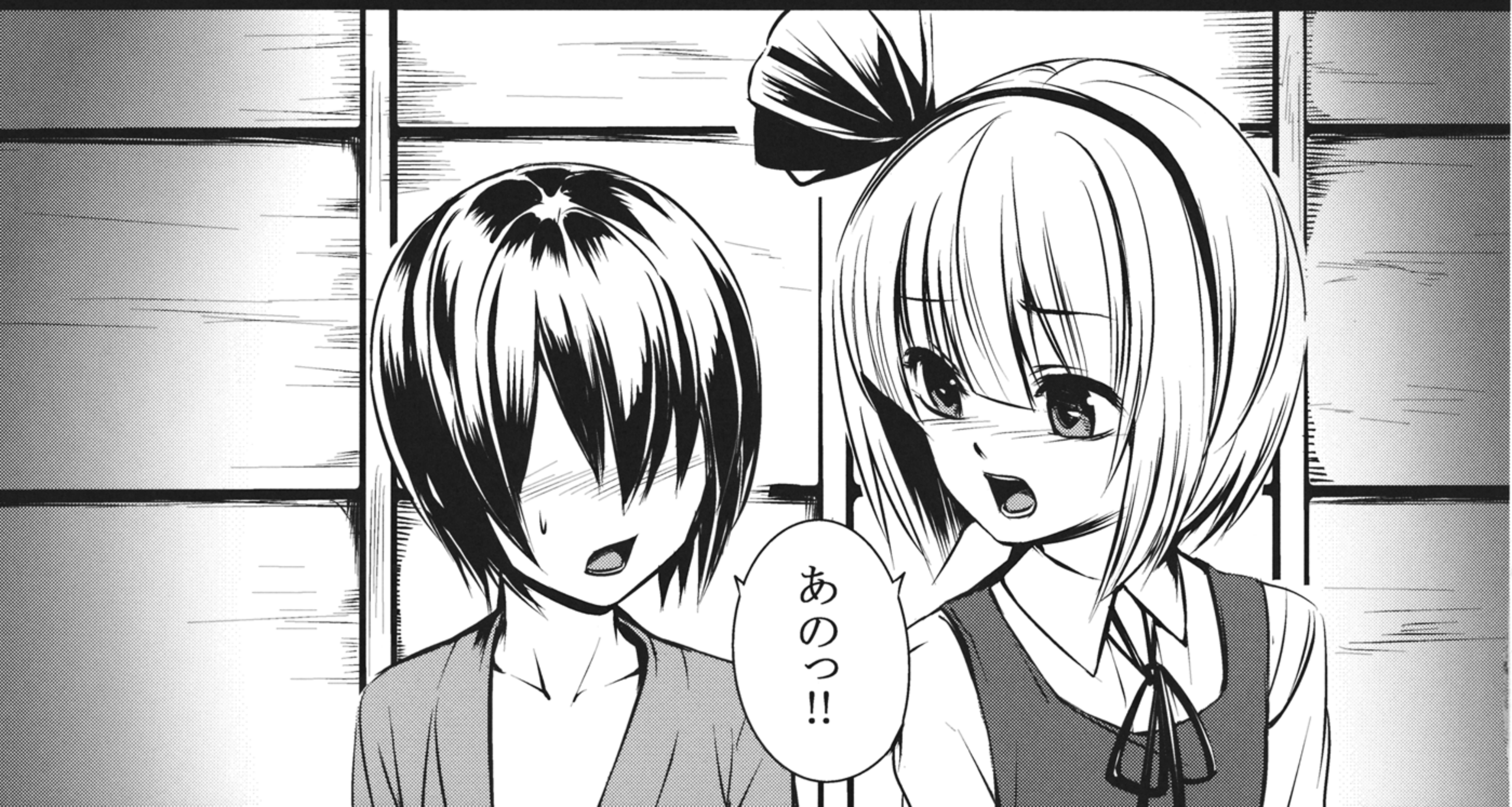
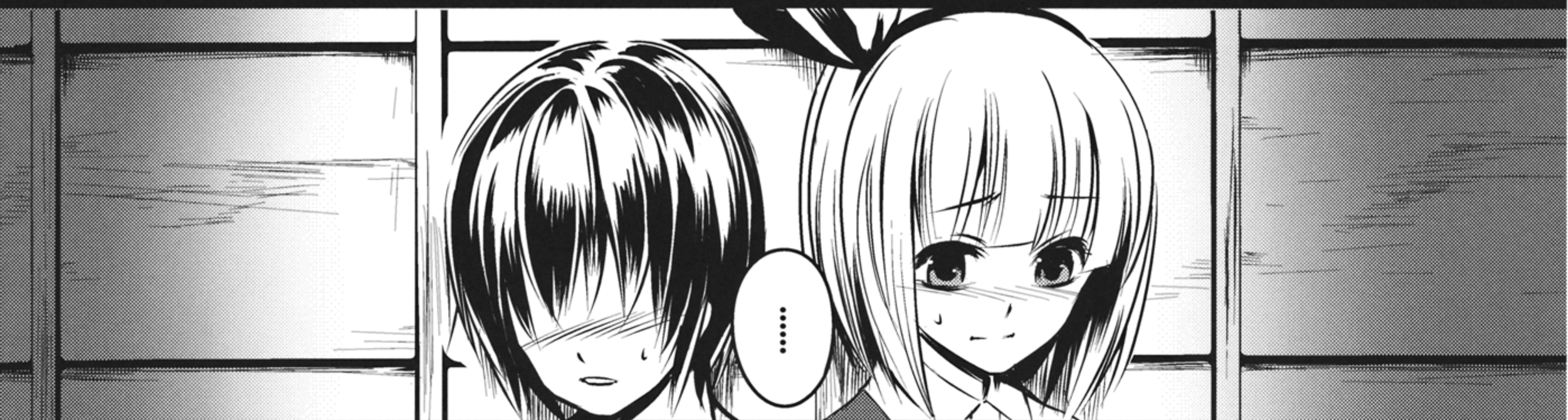
はあ…



はあ…



はあ…





最初は…
こんなつもりじゃ
なかったんです…

あの…



けど…



幽々子姉ちゃん
ずっと
お母さんみたく
思ってた…

あの時も
ただちよつと
甘えるつもりで



あ…

りつ理由はどうあれ
あんなことするなんて
最低だよ!!



お母さん
とは違う…

うまく言えないけど
すぐドキドキして
それで…



あ…
あのね…



ごめんなさい…



ごめん
なさい…

悪いって
分かってても…
抑えられなくて…

男の子が女の子の体に興味を持つのは…

ごく自然なことでもあるし…

ほつほら、人ってオトナになるとね、ふとした時にえ、エッチな気持ちになつたりするから…

その…



主人を守るのが
従者の務め…

…そうだよ。



ムクムク

じゃあ…
妖夢姉ちゃんも？

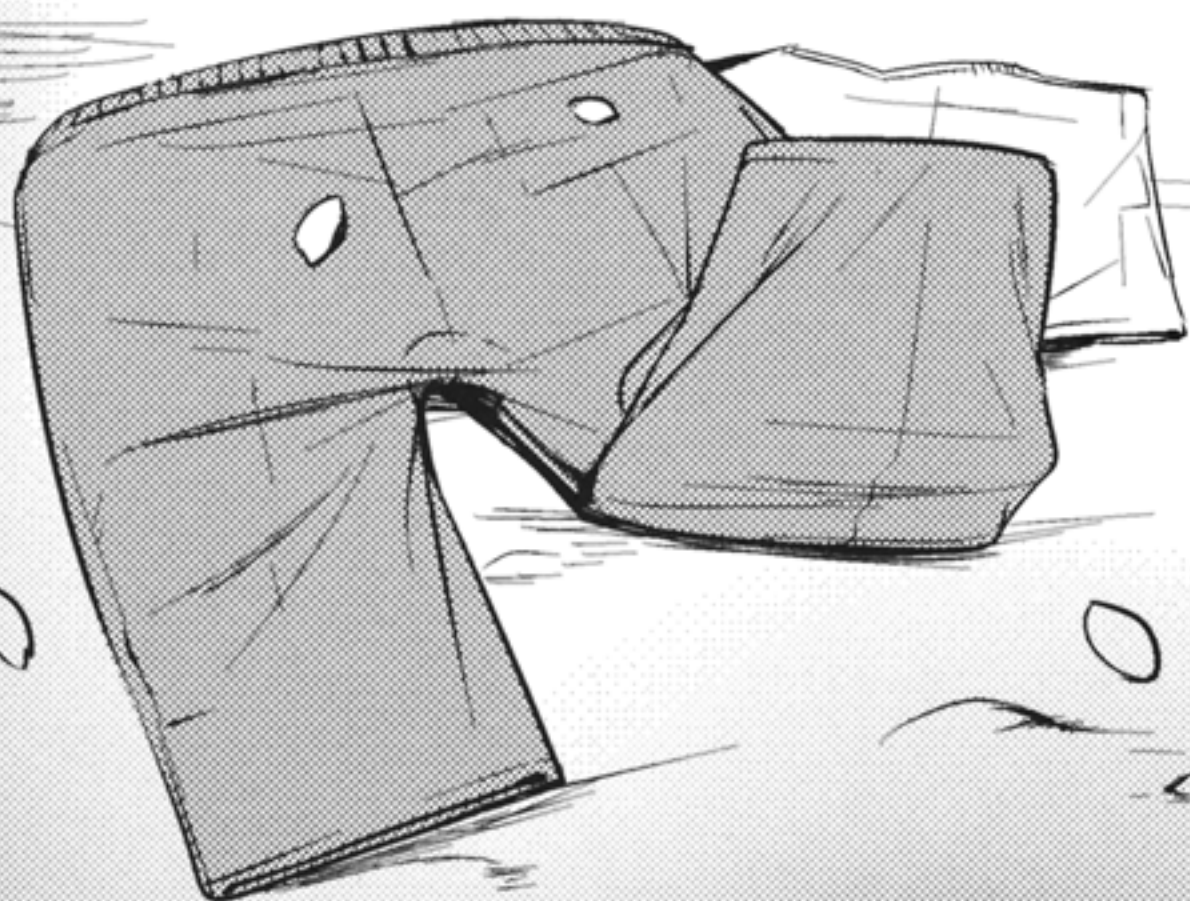


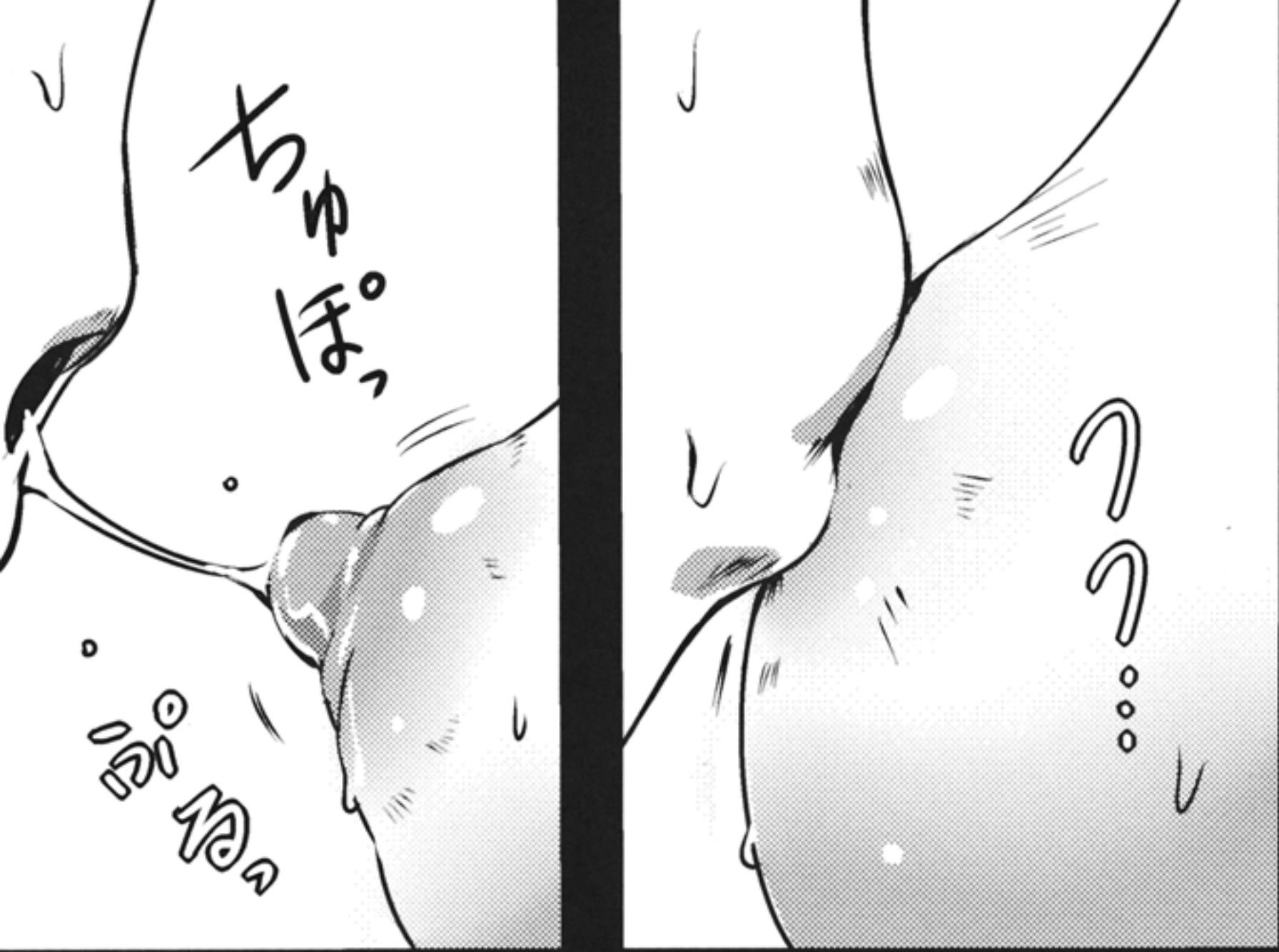
…そうなの？

う、うん。
みんなそうなんだよ。

そう、これは...

私も、
エツチな気持ちに
なったりするよ。

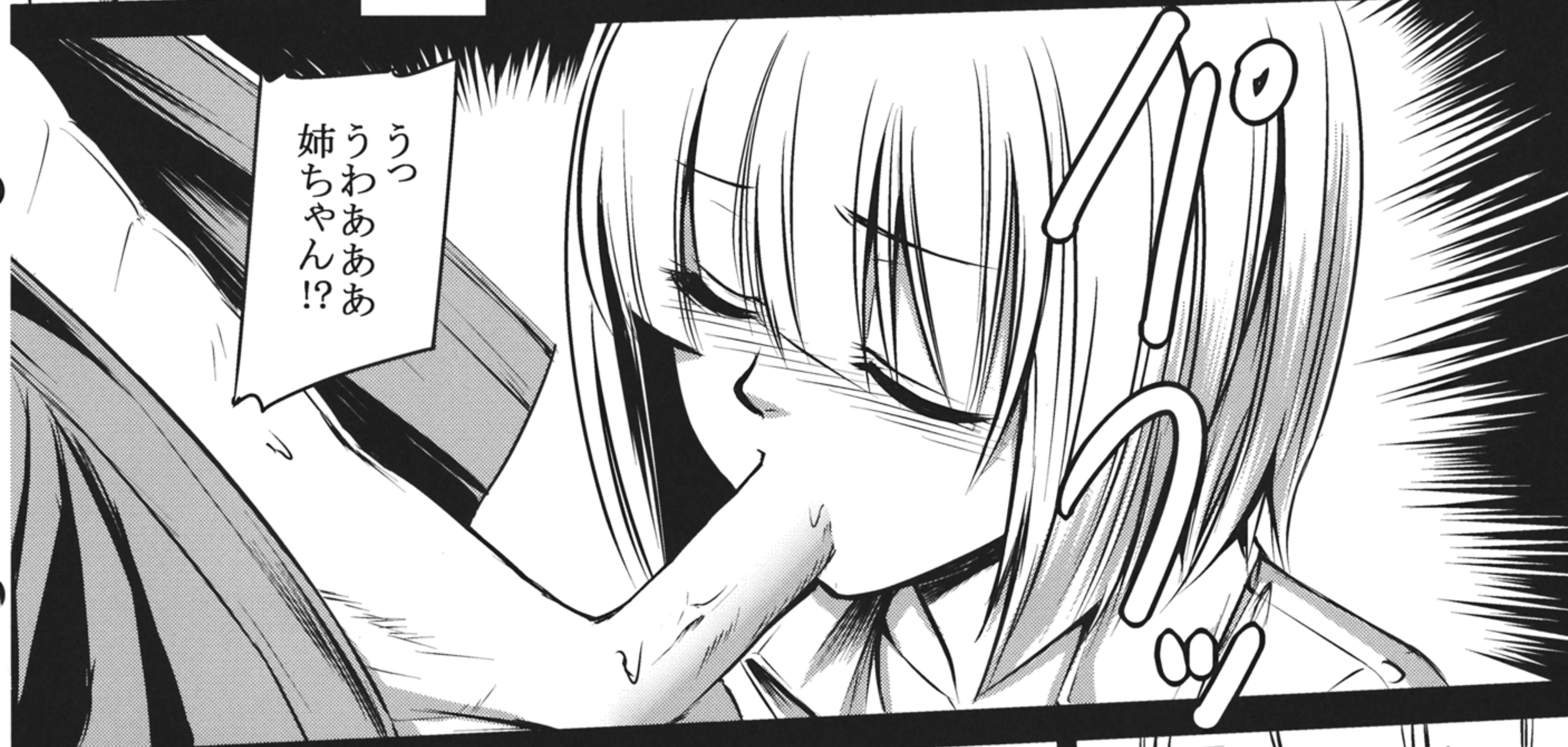




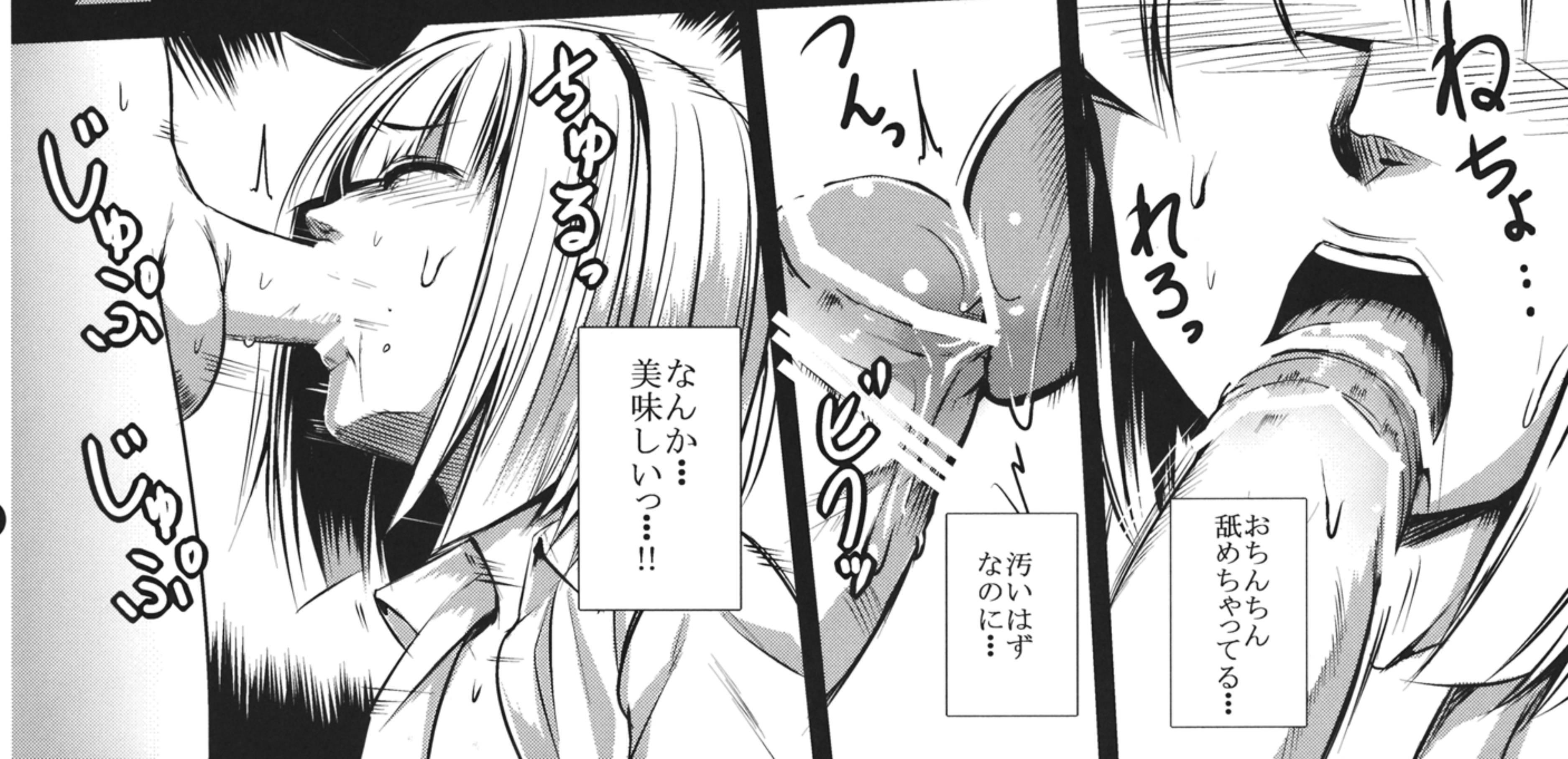


これが...
おちんちん...

あ...
あ...



うっ
うわあああ
姉ちゃん!?



なんか...
美味しいっ!!!

汚いはず
なのに...

おちんちん
舐めちゃってる...



なんか...
気持ちよさそう。

ちゅーん

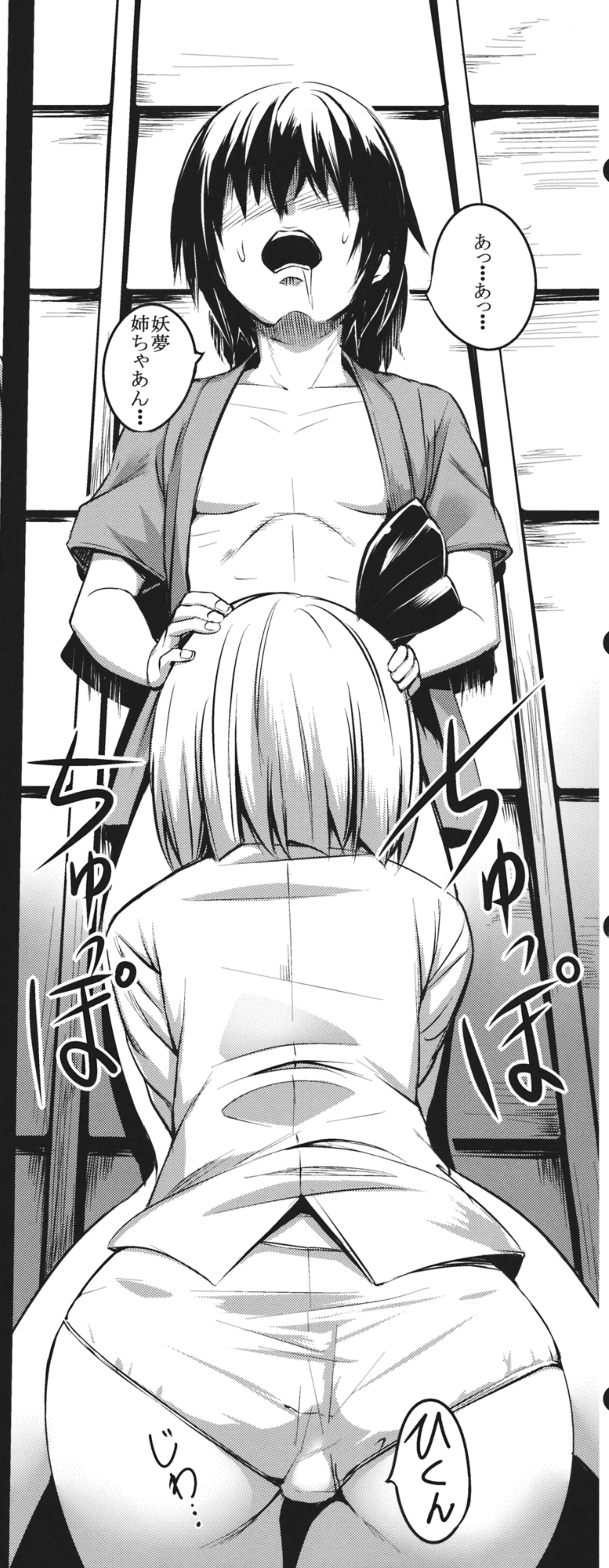
んん



はぁ

はぁ

かわいい...♡



あ...あ...

妖夢
姉ちゃん...

ちゅーん

んん

ちゅーん

んん







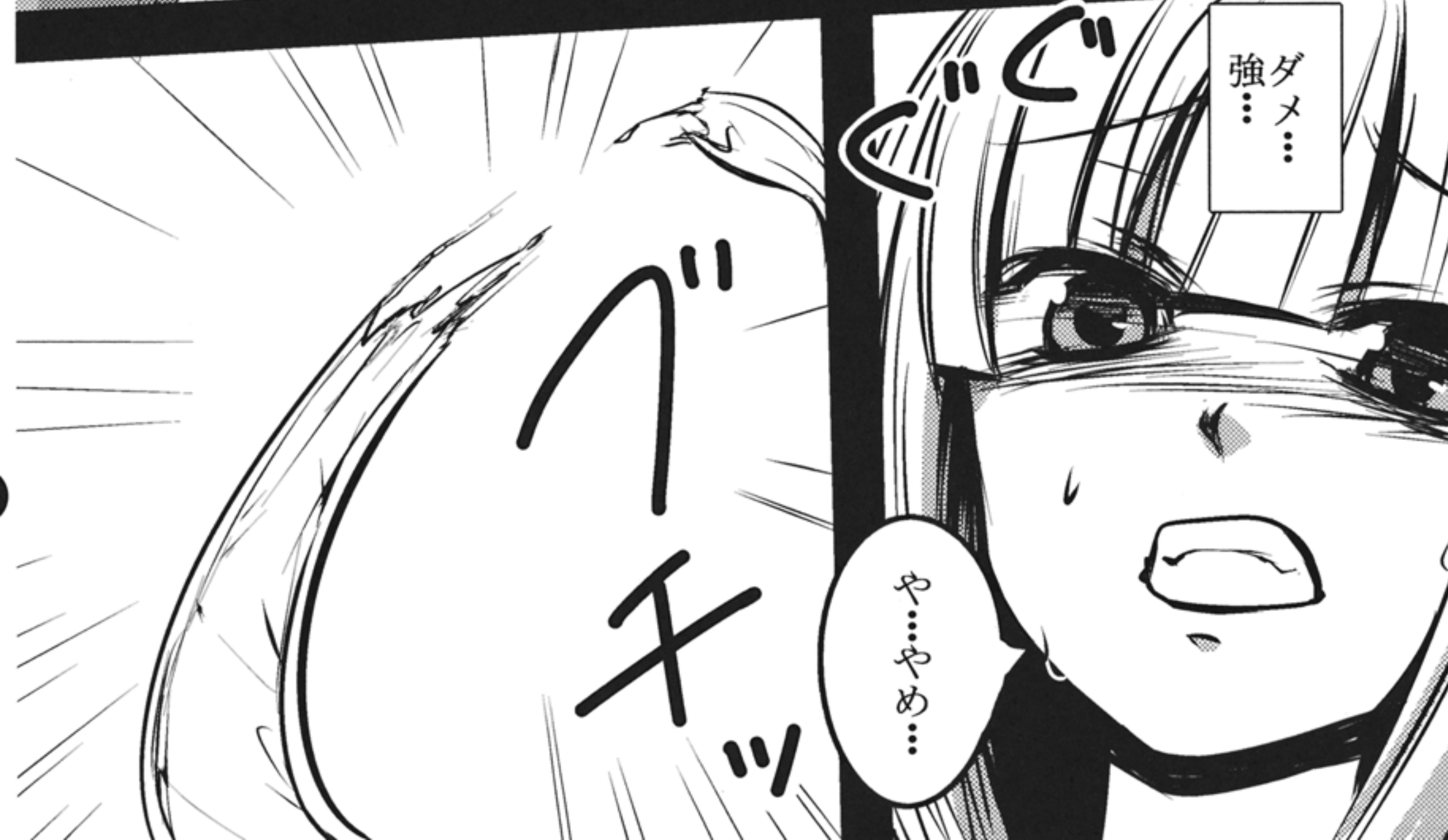
妖夢姉ちゃんの
アソコ
見せてよ。

なっ



ちよっ
やめて!!

何言ってる
!?



ダメ…
強…

や…やめ…

カ
カ
カ

ドキ

ア
ア
ア

妖夢お姉ちゃんの
アソコ...

あれ？

わっ
悪かったわね！

幽々子姉ちゃんと
違う...？

どうせ
子供っぽいわよ！！

すごくキレイ...

そ、そんなこと
ないよ。

妖夢姉ちゃん
だつて...

ん...
ひやあつ



ちよっ
やだ!!

そこ
そんなに
触っちゃ...

はっ

はっ

はっ

はっ



ここ、
ヌルヌルしてる...



これが...
妖夢姉ちゃんの...



いっいやあ!!
そんなあああ!?



そ…そこっ
舌で…あつ…



姉ちゃんっ
美味しいっ



ダメええ!!

汚
おい
おお!!



んああああ
ああああ
ああんっ!!

びっ
びっ

びっ
びっ

びっ
びっ

びっ
びっ

びっ
びっ

びっ
びっ

びっ
びっ

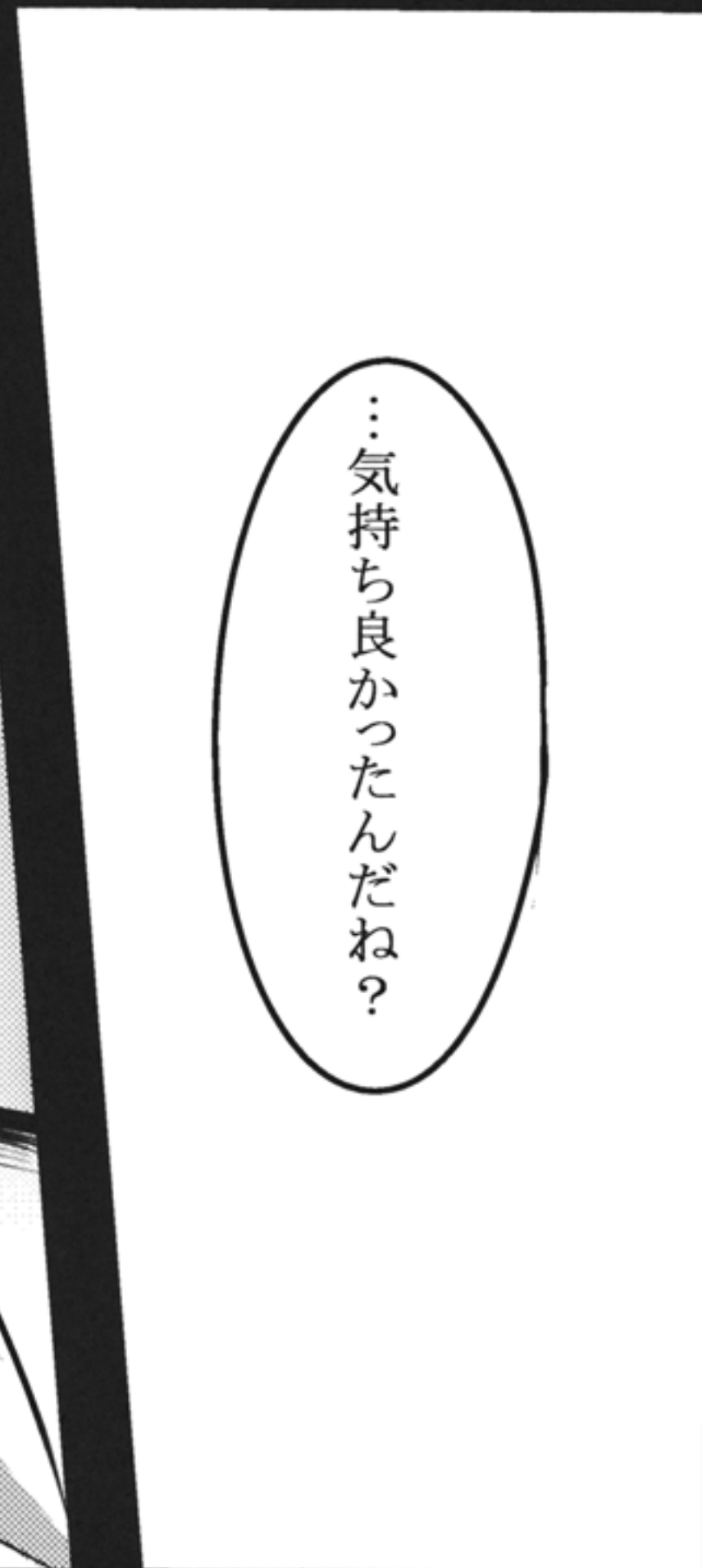


!!



ふえ？

僕に舐められて
気持ちよかった
んだね？



…気持ち良かったんだね？

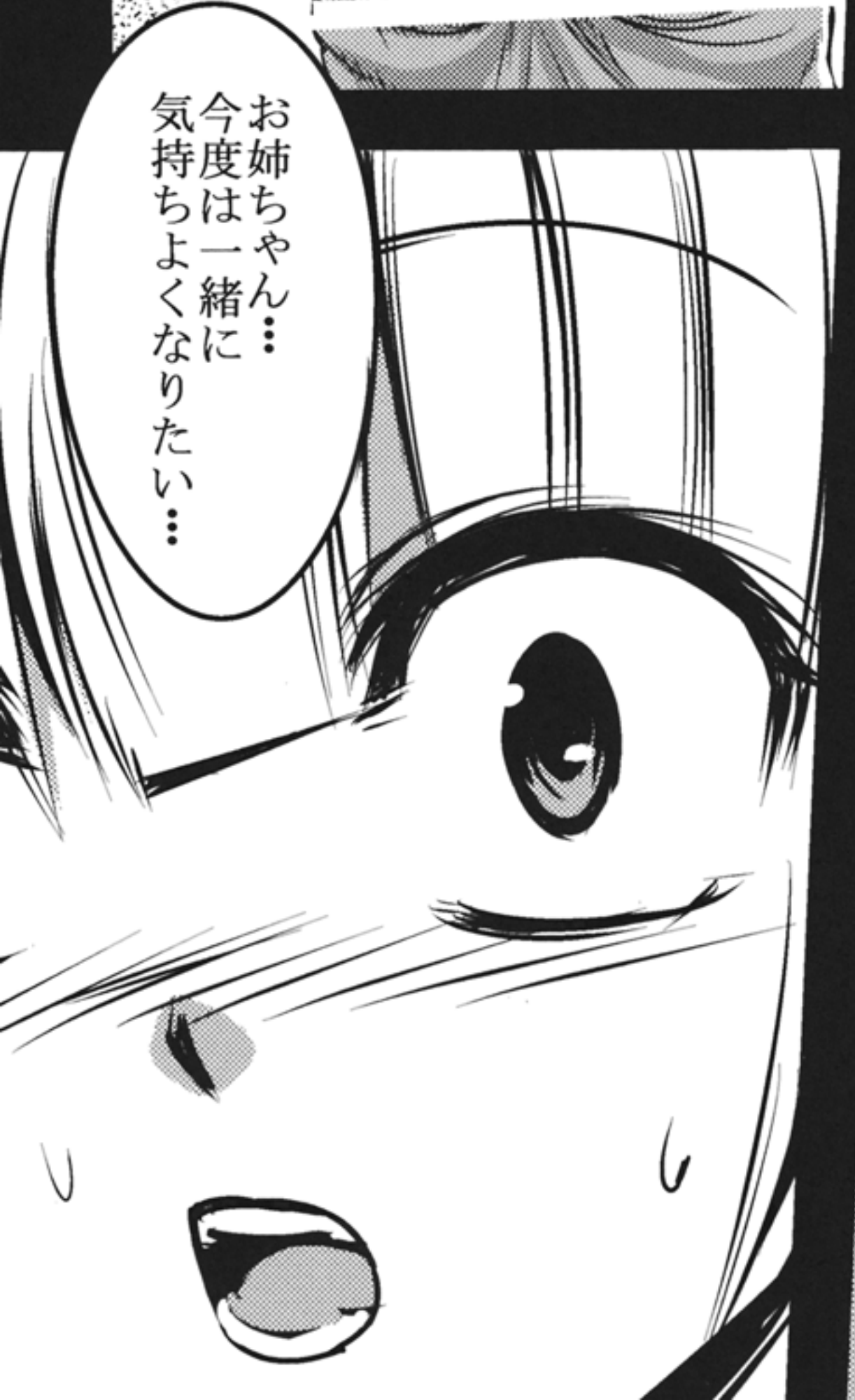


キキキ



な…なんか僕また
興奮してきちゃった

すごい…
またあんなに
大きく…



お姉ちゃん…
今度は一緒に
気持ちよくなりたい…



こうやって
すり付け合えば...



うん...そう。

うん...そう。



一緒に
気持ちよく
なれるよ...

な...なんか
本当にオトナの人
みたいなこと
してる...

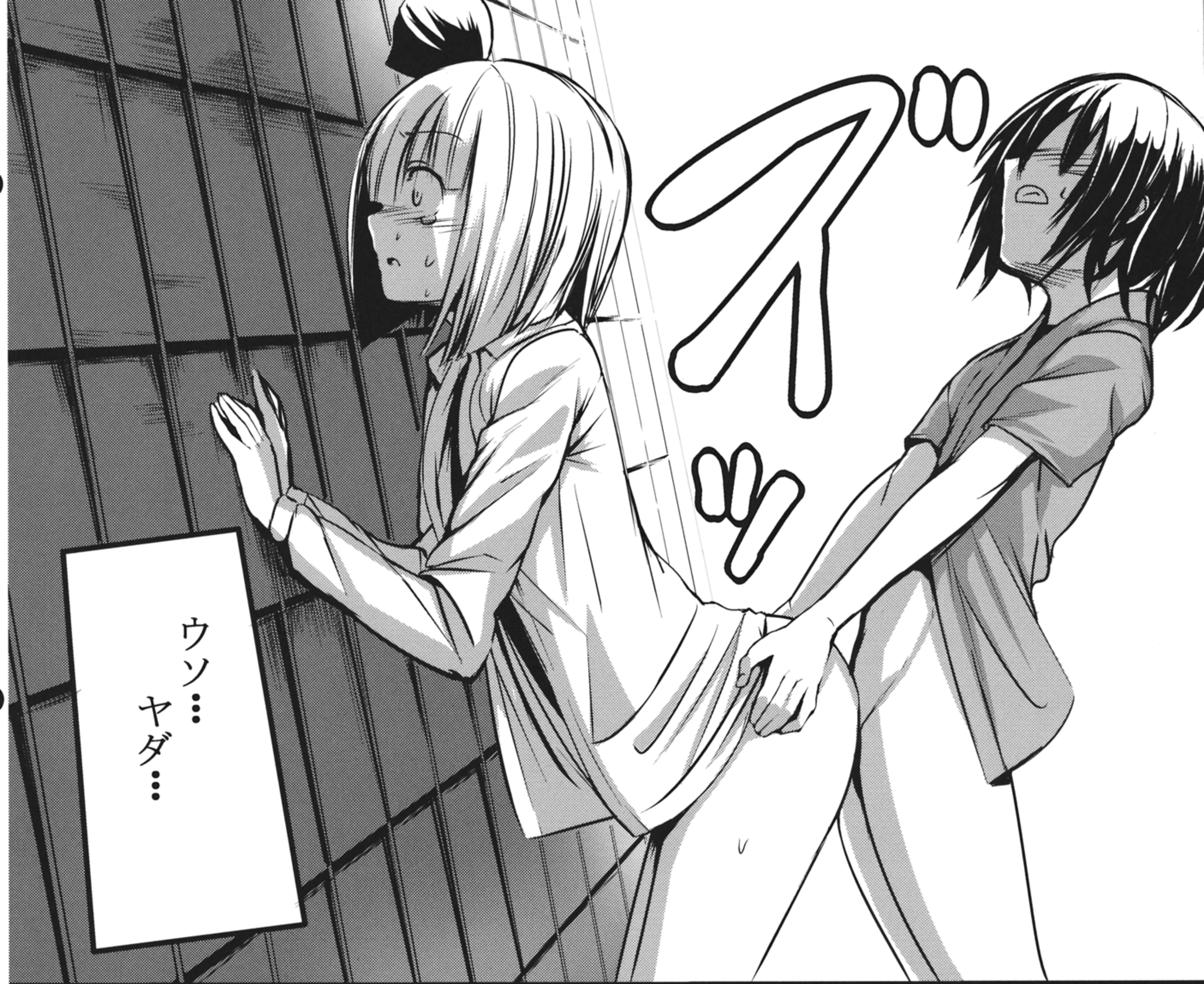


はあ...
はあ...

びん

びん





ウソ…
ヤダ…



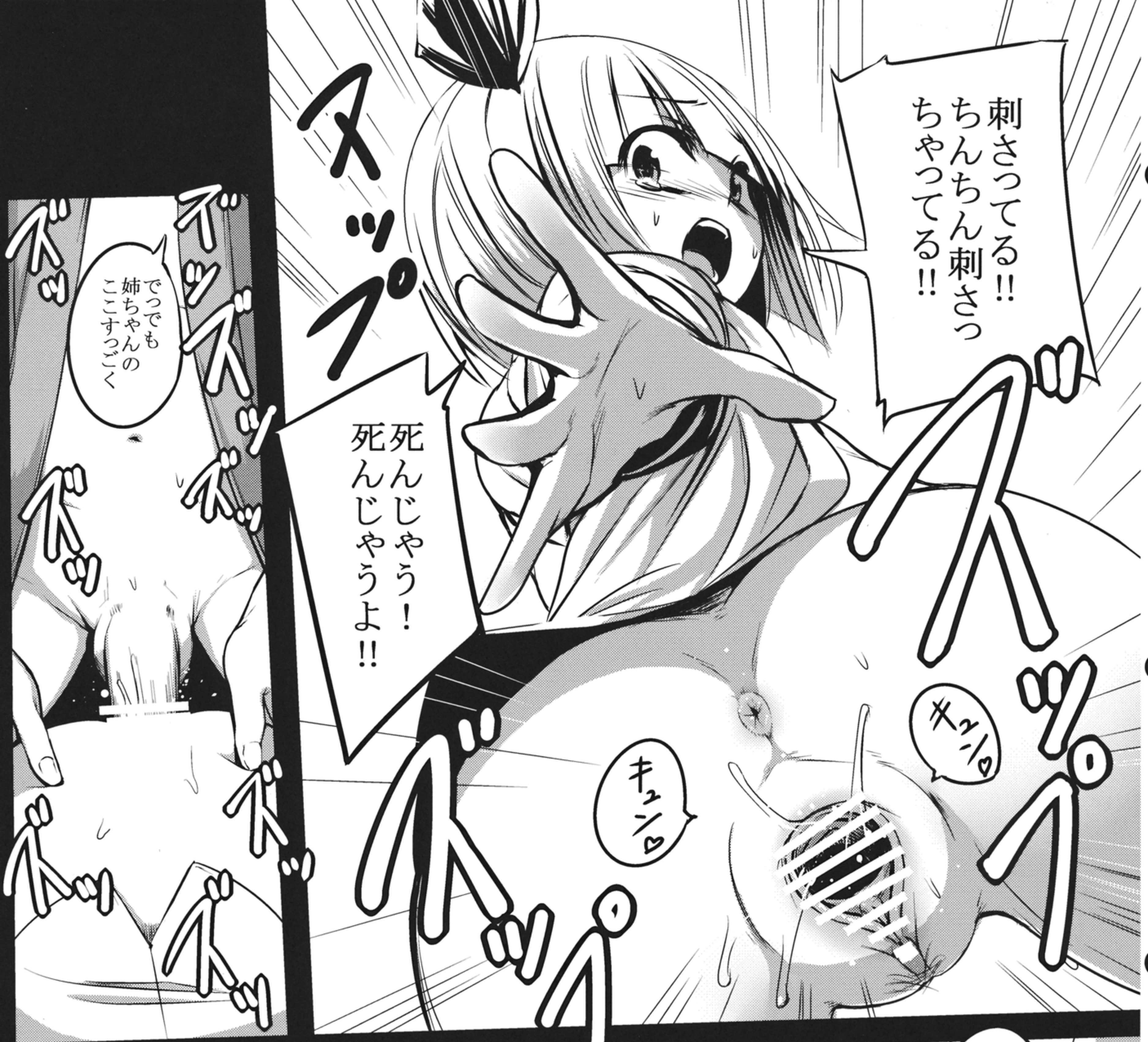
ヤダヤダヤダ!!
怖い!!
抜いて!!



ちんちん…
刺さっ…



びくん
ギッ…



刺さってる!!
ちんちん刺さっ
ちやつてる!!

死んじゃう!
死んじゃうよ!!

キュン♡

でっでも
姉ちゃんの
こころすつてく



気持ちいい...

助けて...

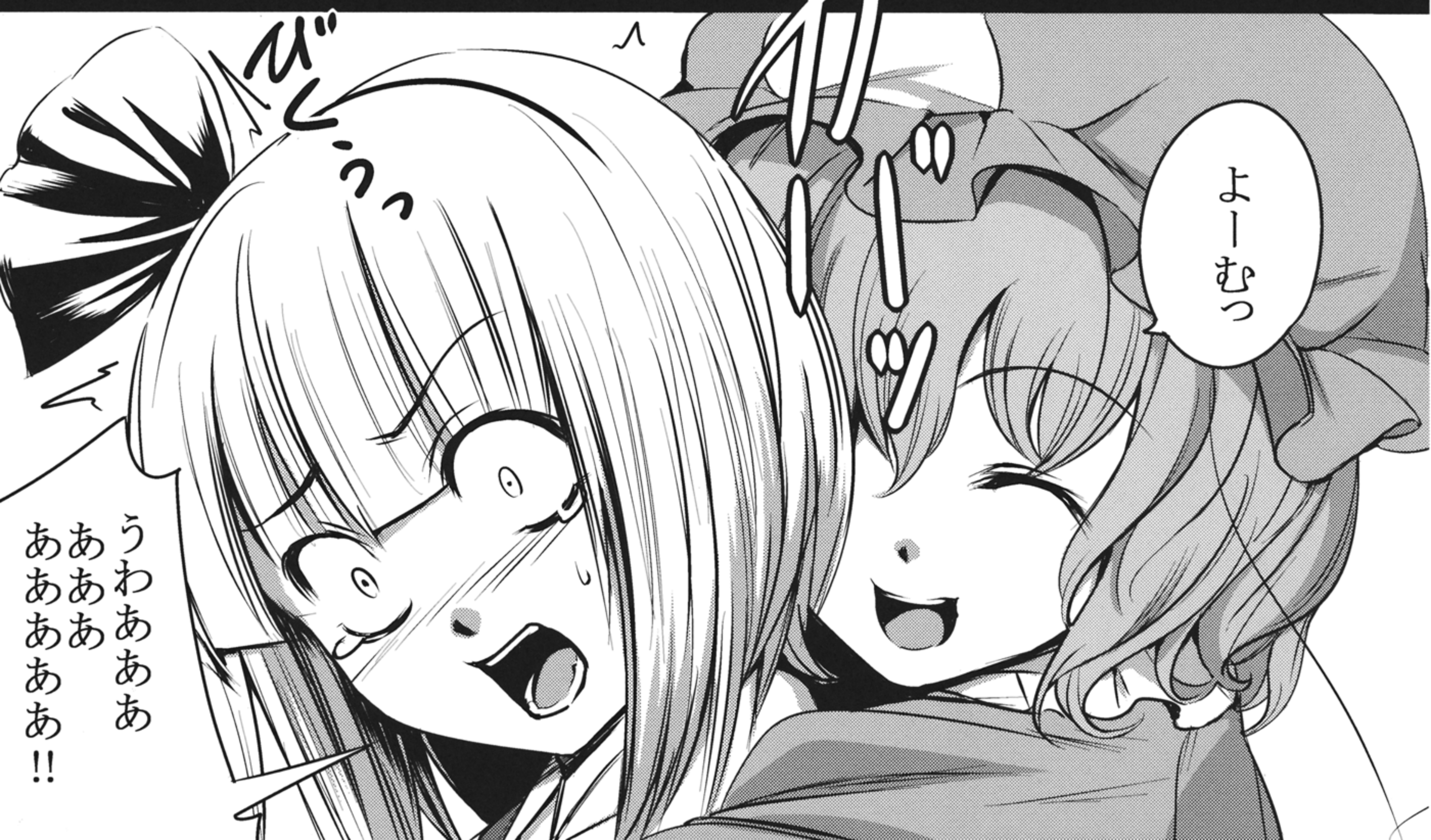
幽々子さまあ...

はっ

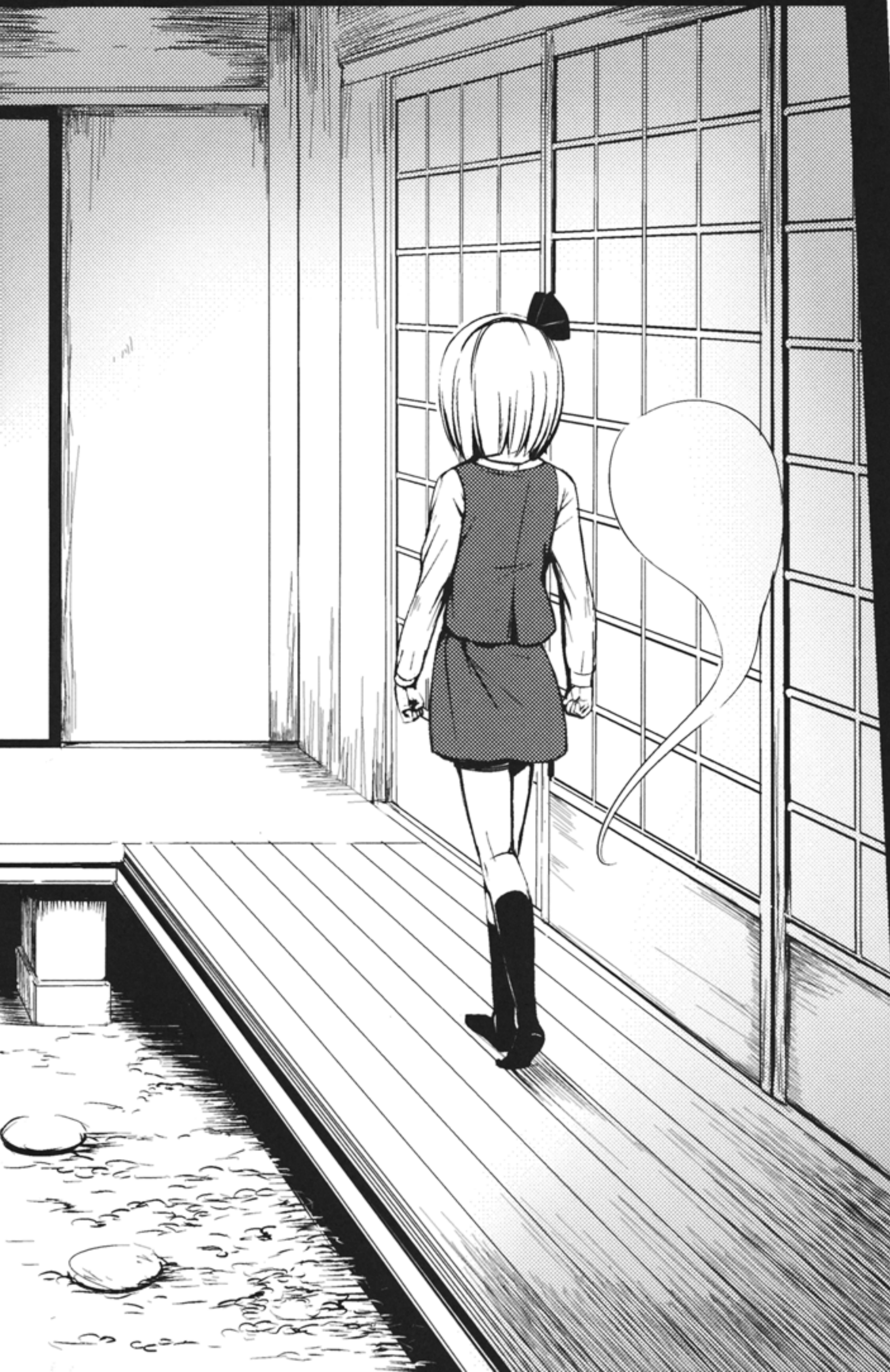
はっ















幽々子さまあ!!



!!



幽々子さま!!



はあっはあっ

はあっ!!

アッ

アッ

アッ



これ!!

性のなんとか
H ♂



妖夢はしたくないわよ。

幽々子さまに
お聞きしたい
ことが
あります!

ばんっ...

とぼけないで
ください!!

私はこんな本
持つてませんし、

わざわざ私が
悩んでいた
ことに
関するページが

開いて
置いて
ありました!!

やあだ妖夢つたら。
朝からそんな本



そうよ。
全部知ってたわ。



幽々子さま!
全部知ってたんですか!?



おまけにエッチに
興味津々みたいだったから
いい機会だと思ったのよ。

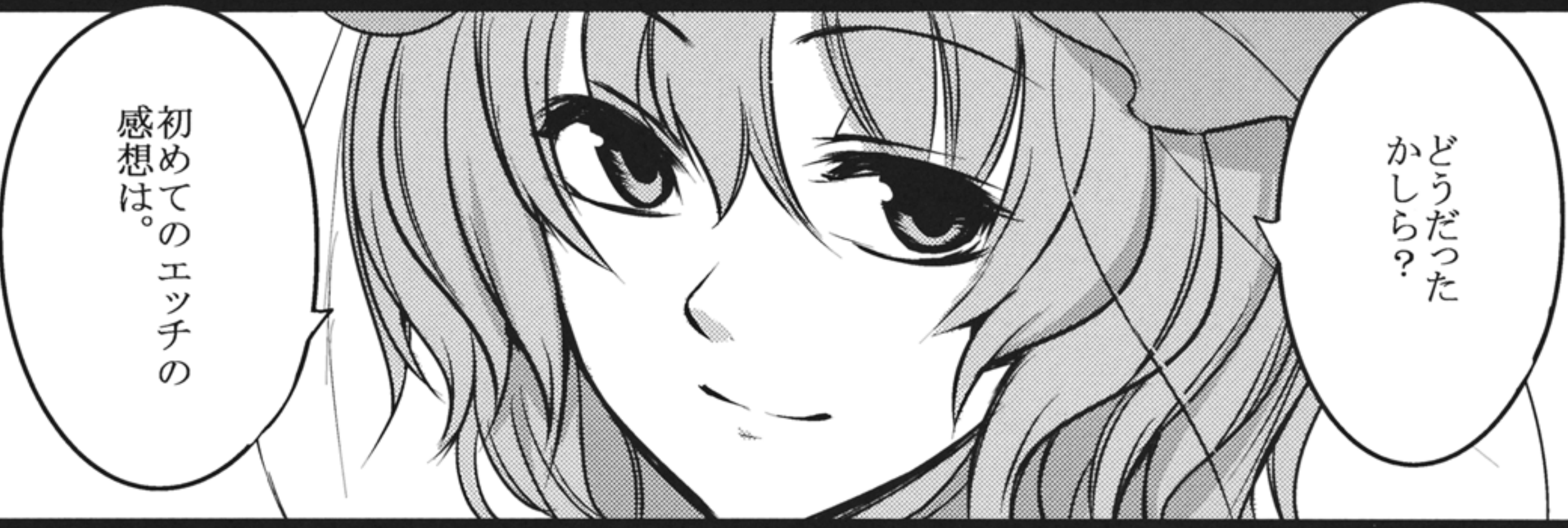
二人とも
いい年頃だったし。



かわいかったから
寝たふり
してたんだけど♪

キミが毎晩
してた
ことも。

ズワッ



初めてのエッチの
感想は。

どうだった
かしら？



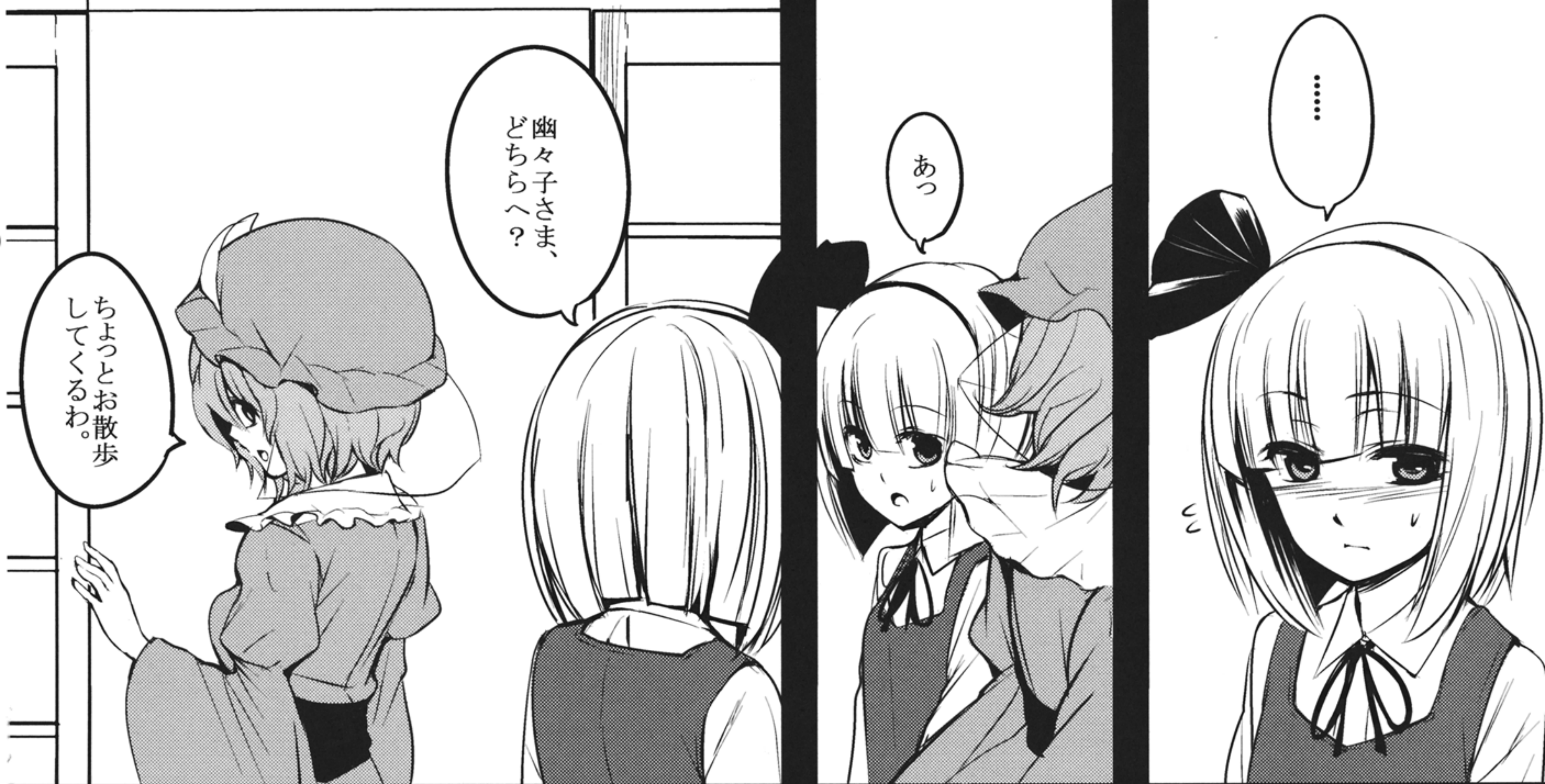
主人を守るのが
従者の務めって

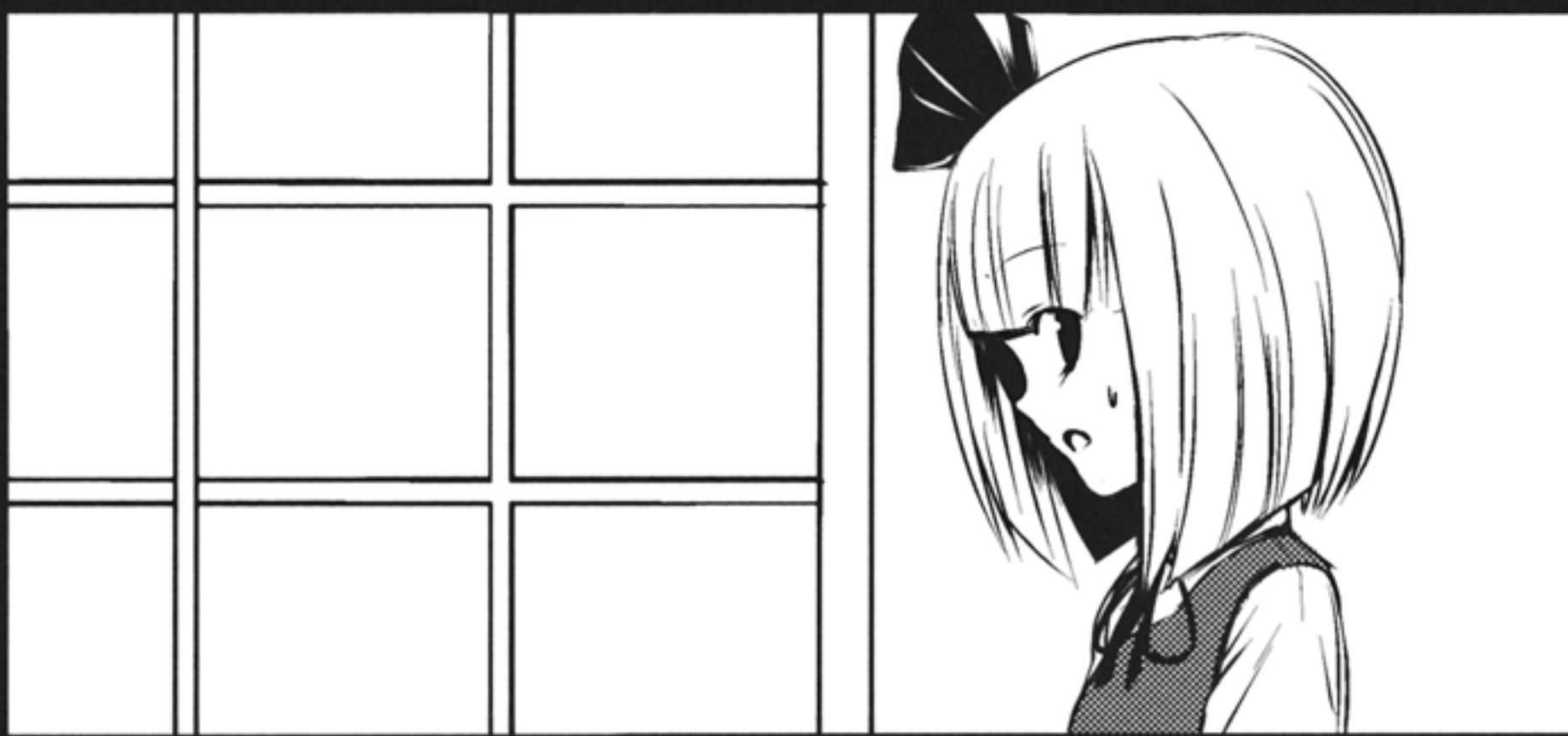
背伸びをしたのは
誰だったかしら？

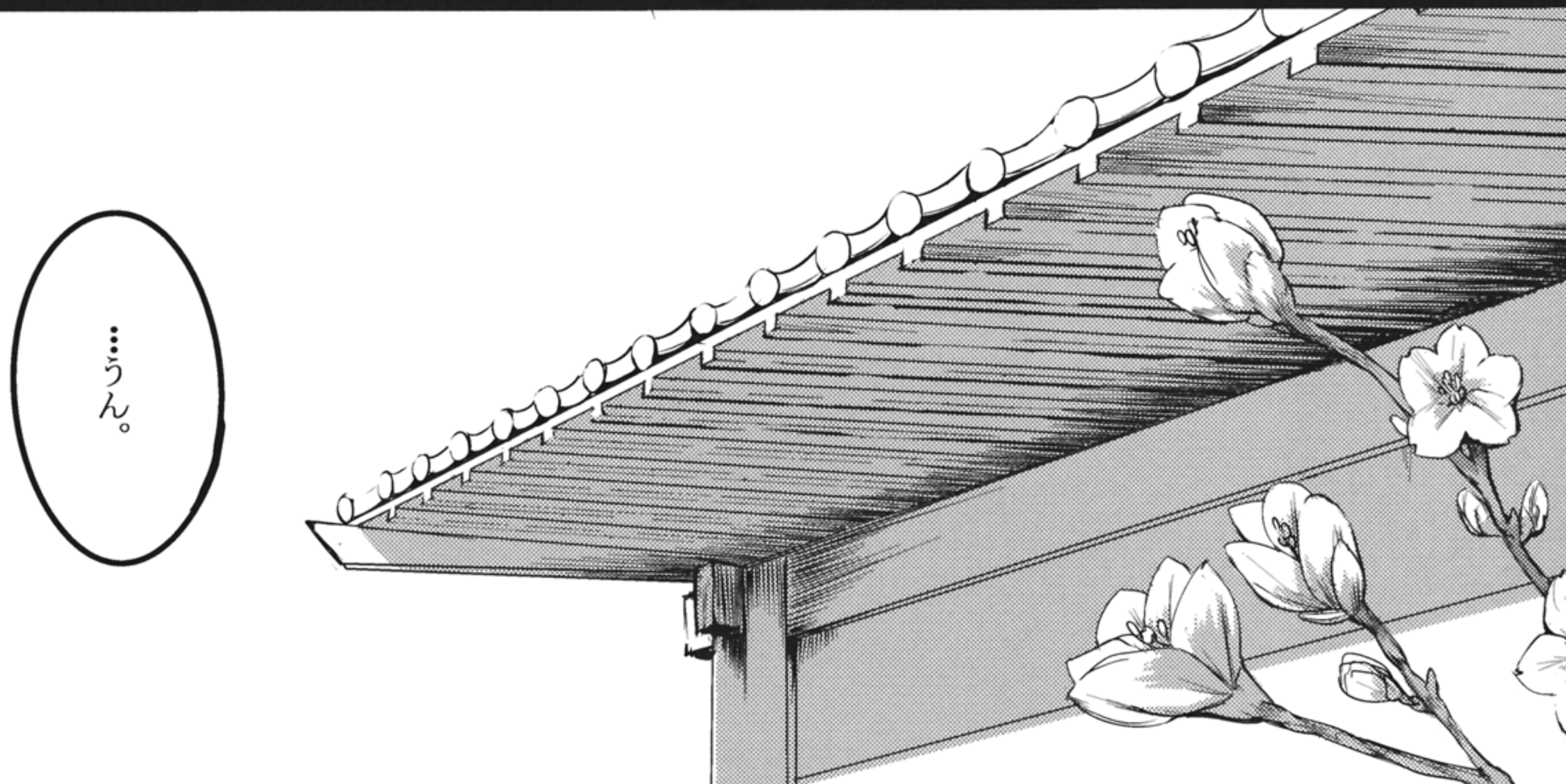


あら。

そ...そんな...
もつと他に
やり方が...







あとがき

こんばんは。竹森真太郎です。
お手にとっていただきありがとうございました。
今回は背伸びをしたかった妖夢ちゃんのお話。
妖夢ちゃんでおねショタ描きたいと思いついたものの、
自分の中で彼女はまだ幼さの残る印象があり
あまりにもお姉さんぶらせるのも何か違う気がしたので、
年頃の女の子がお姉さんぶって調子に乗って痛い目を見る、
そんな感じの内容にしてみました。
そのうえで幽々子さまをさらにお姉さんポジション
に据える必要が出てしまい、「ゆゆさまは男を知らない派」
のファンのみなさまには
不快にさせてしまったかもしれませんがどうかお許しを…
あと、若干話の内容に重点を置いたおかげで
肝心のエロシーンが薄めな気もして
それについてもちょっとお詫びしたいです。
しかしながら自分としては過去最大の本文44ページとなり、
描き終えた際には今まで以上の達成感がありました。
この経験を生かして次回もまた精進していきたいと
思いますので、
また何とぞよろしくお願いいいたします。
それではこれにて。例大祭も10回目とはたまげたなあ。

それから
私たちは…

だんだんと
この子を受け入れる
ことにも慣れ

こうして時々
エッチをするように
なりました。

今では素直に
気持ちよさを感じて
います。

ハア♡

ハア♡

ハア♡

ハア♡

ハア♡

ハア♡

ハア♡

ハア♡



このままだと
お役目がおろそかに
なつてしまうかも
しれない……



最近
は顔を合わせる
たびに
するくらい
頻度が多
くなつた
気がし
ます。



……でも
いつか♡



奥付

原作：上海アリス幻楽団様

竹森真太郎 (スサノアラシ)

[http://susanoarashi2.blog40.fc2.com/
pixiv=293912](http://susanoarashi2.blog40.fc2.com/pixiv=293912)

2013年5月26日 第十回 博麗神社例大祭

印刷所：サングループ様



TOHO PROJECT FAN BOOK